

東日本大震災復興支援
松戸・東北交流プロジェクト

**3. 11から学んだこと
伝えたいこと**

<講師・所属>

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト 共同代表 門馬 正純

<経歴>

- ・南相馬市立鹿島小学校校長。
- ・震災の翌年**2012**年定年退職とともに流山市に避難。
- ・流山市、松戸市、三郷市、東京都渋谷区の小中学校や松戸市青少年会館や千葉県教育会館で児童・生徒、教職員、**PTA**、一般の方々を対象に震災で体験したことを伝えてきました。
- ・近年は防災について学び直し、病院や住宅管理組合、地域包括支援センターから依頼を受け、自助・共助・減災についても話をしています。
- ・また、サロン「黄色いハンカチ」で、3, 11を風化させない、災害への準備、軽減を図るため、毎月「防災井戸端会議」で防災についてみんなで学習をしています。

<趣味>

山歩き、散歩、習字、読書、瞑想



共同代表 佐藤利雄さんの紹介

<経歴>

- ・福島第1原子力発電所でレベル監視、建屋清掃をして26年間勤務し、60歳で定年退職。
- ・2011, 3・11の東日本大震災により、松戸市に自主避難。
- ・松戸市に避難してから、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトに運営委員として参加。北小金に移転してから共同代表となる。
- ・原子力発電所で作業していた時のことや安全性や危険性について伝えたい。汚染水処理については、レベル監視をしていたので、特に危惧の念を抱いている。放出の際は漁業関係者の確認をしてほしい。
- ・これからも注意して関心をもって見つめていきたい。

<趣味>

- ・マラソン、山歩き

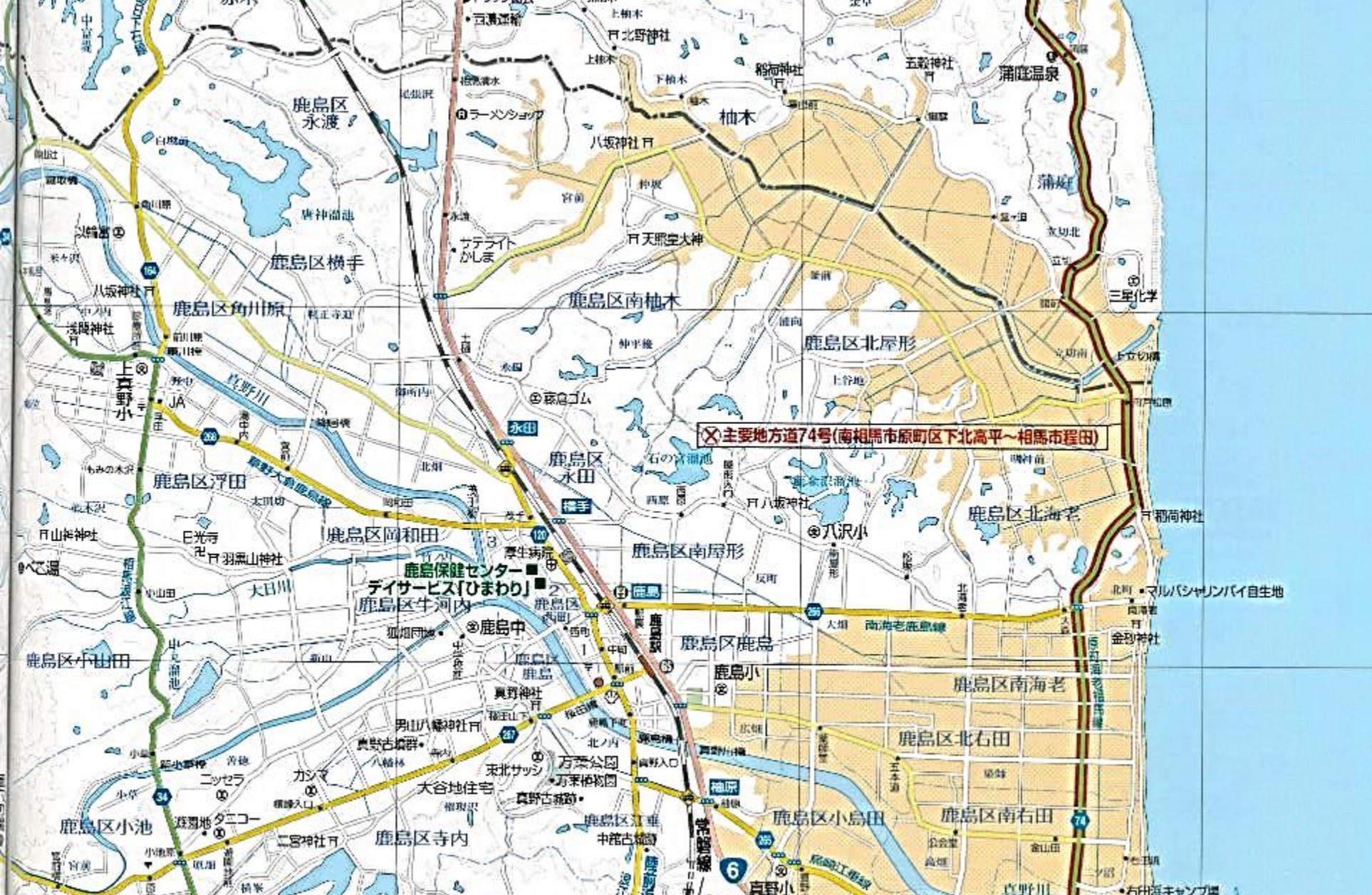


避難区域の状況 (平成24年4月1日時点)

ふくしま復興ステーション
ホームページより

3・11

鹿島小学校の様子
スライド



福島県南相馬市原町区 鹿島小学校

①



机や椅子は教室の後方東側(海側)に移動してしまいロッカーの中の荷物はほとんど床におちてしまった。

②



ガラス戸のないスチールの戸棚は倒れなかったが、中の先生方の資料は床に落ちてしまった。

③



ショーケースのガラス戸は動いてしまい中にあった楯やトロフィーは倒れてしまったものもある。

④



校長室の様子：2段の戸棚は大きく東側(海側)の壁に寄りかかってしまい、ゴムの木の鉢が割れ、倒れてしまった。
手前にあった耐火書庫は30センチほど動いてしまった。

⑤



東側(海側)の戸棚のガラス戸は外れてガラスが割れ、事務資料が床に落ちてしまい、事務机の引き出しも外れて、事務用品も床に落ちてしまった。

⑥



東側(海側)の多くの本棚の本が斜めに倒されたり、床に落ちてしまったが、重い机や椅子は動かなくて済んだ。

⑦



東側(海側)にある職員用のアスファルト駐車場に、幅は狭いが、長さ10メートルほどの亀裂(裂け目)が入ってしまったが、西側(山側)にある来賓用駐車場は無事だった。

⑧



津波の様子1(屋上から):校庭近くまで押し寄せてきた津波を、教頭先生が屋上から写した1枚である。鹿島小学校では、通学距離が2キロ以上の児童は自転車通学となっている。また、山手や海手の子どもたちはバス通学している。

⑨



津波が校庭近くまで波打って、刻々と押し寄せてくる様子を教頭先生が屋上から写したもう一枚の写真である。田んぼの畦道も津波にすっかり飲み込まれているようだが鹿島小学校は無事だった。



広範囲にわたっての津波の様子を、教頭先生が屋上から写した写真である。手前にあるビニルハウスも波に襲われているが、津波は田んぼ側にある側溝に落ちて、鹿島小学校には達しなかったため自転車は流されなかった。



災害後の授業の様子(2階):3年1組と2組が一緒の教室で行った合同授業である。鹿島小学校内には、原町第一小学校、原町第三小学校、小高小学校の三つの小学校も授業をするようになった。写真にはないが体育館には原町第1中学校が入った。



災害後の仮設校舎建設の様子(外)

クレーン近く右側に見える平屋の建物がユニット校舎である。ユニット校舎で、鳩原小学校と金房小学校の二校が授業を行った。校庭の半分が校舎に使われ、残りの半分も駐車場に使われてしまった。



2011年11月21日から1階には小高中学校が入り、2階には福浦小学校と真野小学校の2校が入った。

震災でつらかったこと

- ①放射線量が怖くて物資が6月まで届かなかった
- ②2年女子、5年男子、6年女子の3人が津波にのまれて亡くなった
- ③家族がバラバラになってしまった。地元に残っているのは高齢者のみ
- ④友達との別れ。母の実家へ移住(県内の他地区、山形県、長野県、東京都など)
- ⑤児童職員に対して配慮したこと

震災でよかったこと

- ①外で遊べない、泳げない子どもたちに全国から保養のおさそいがあった
- ②ラモス・ルイの訪問があった
- ③ホンダ「アシモ君」との交流が出来た



学んだこと・伝えたいこと

①「てんでんこ」に避難

- ・釜石の奇跡
- ・大川小学校の悲劇

②大災害時には情報源として、電池式携帯ラジオ、 自家用車のラジオがたよりになった

③学校の体育館が避難所になる

- ・学校職員と市職員との役割の確認
- ・学校職員と地域の人との役割の確認
- ・避難所運営に女性の参画が不可欠

休 憩

自助・共助・公助

- ・自助：自分でできること＝自分の命を守る
- ・共助：地域で取り組むこと＝減災
地域で取り組むことは「出火防止」と「救出・救助」
- ・公助：市・区・町・村でやること

3・11

生きてきた10年・これからの10年

東日本大震災復興支援松戸東北交流プロジェクト

**交流サロン「黄色いハンカチ」の
活動紹介**

活動の趣旨

松戸への避難者支援

(震災当時は避難者が**100**世帯いた)

- ・避難物資の提供
- ・住宅、法律、就職相談など専門家とつなぐ
- ・避難者同志の交流の場
- ・生活に関わる情報提供

(松戸市危機管理課からサロンニュースの送付など支援をいただいた)

現在は被災体験を松戸の防災に生かすとともに震災の風化を防ぐ活動をしている

- ・避難者の見守り
- ・被災地の今を伝える

2012年松戸市(旧伊勢丹隣)に 交流サロン「黄色いハンカチ」オープン



2012年避難者の交流サロン「黄色いハンカチ」旧伊勢丹隣にオープンしました



2014年「3・11 忘れないで」(みらいフェスタ)。復興への思いを黄色いハンカチにメッセージを書きいただきました



2016年旭市の東日本大震災のメモリアルとその教訓を活かした防災教育に関する事業を見学



2016年自主避難者交流会&行政説明会、借り上げ住宅の今後についての説明会も合わせて開催



2016年6月11日-活動報告会-「埼玉県広域避難者センターの支援活動に学ぶ」を開催



2017年「地域で暮らすための減災学習会」を開催しました

2018年北小金に移転 地域に根差した活動を！



2018年5月7日「カフェ散歩びより」
&「黄色いハンカチ」オープニングイ
ベント開催



裏の庭はミニガーデンとして
みんなの憩いの場となってい
ます



2019年講演会「福島からの報告」
講師大山晃平氏（忘年会）



2019年圓慶寺さんで3・11特別
法要していただきました



埼玉から法要に参加した避難者の
皆さんと河津桜の前で記念写真



2020年北小金地区の子ども
食堂が主催するフードパントリーに協力しました

震災の体験を
松戸の防災に生かす

防災井戸端会議



「防災井戸端会議」毎月1回開催

東日本大震災の体験を生かし、日々の暮らしに役立つ防災のアイデアなど、松戸市民との活発な意見の交換の場となっています。

頻繁に起きる、記録破りの災害について、さらなる困難な災害に立ち向かうためには、どのような対応ができるかなどを考えます。



防災井戸端会議 2021年6月16日

家族の話し合い

「防災ミーティング」を開こう

*テキスト「災害に対する備え」(松戸市発行)を活用して

13:30 「みんなで話そう」

14:30 休憩 スイーツタイム(30分)

15:00 門馬さん

「福島第1原発現場からの報告」(20分)

佐藤さんの思い伝えたいこと (10分)

東日本大震災復興支援松戸東北交流プロジェクト



- 松戸市の「災害に対する備え」をテキストに活用
- 防災食・食べられる野草などをワークショップ形式で開催

今後は、市内各所で「出張防災井戸端会議」を展開していきます

避難者の今の声

コロナ禍で不安の多い中での、避難者の皆さんの暮らし向きを訊ねるアンケートを実施しました。10年経った今の避難者のみなさんの声です。

避難先での生活で悩みがあれば言える範囲でお聞かせください。

- ・生活が大変で定期的に病院に行けない
- ・人に避難者と言にくい
- ・家族と離れて暮らしており、安否確認など対応がすぐにできないこと
- ・話し相手が限られている
- ・悩み事は沢山あるが取り合えず現状を維持し日常生活を送っている

福島県に或いは福島県を通して国への要望があればお聞かせください

- ・復興を第1に考えてほしい。
- ・従来の部落が継続されているので高速道路の無料化を継続してほしい。
- ・元の住宅跡地の管理や固定資産の減免をお願いしたい。
- ・補償を完全にしてほしい。
- ・放射能の除染をやりきる。
- ・土木工事の復興はほどほどにして、帰還を希望している人が取り組める施設をふやしてほしい。
- ・国も県も私には何もしてくれなかった。
- ・線引きに関する問題、9年経過しても解決がない。



Q 1. 防災クイズ その1

突^{とつ}然^{ぜん}の地^じ震^{しん}。まずすべき
ことは、身^みの安^{あん}全^{ぜん}の確^{かく}保^ほ
より火^ひを消^けすことである。

○でしょうか X でしょうか

Q2.

防災クイズその2

やっと揺れがおさまりました。次にやることは、
非常持出袋を持って、急いで
外に逃げる。

○でしょうか ×でしょうか

防災クイズその3

Q

3

寝室には、スリッパや靴をいつも用意しておく。

○でしょうか X でしょうか。

防災クイズその4

Q4 何とか、外に逃げることに成功しました。しかし、家の中に預金通帳など、大事なものがあります。今、現在、揺れがおさまっているので、すぐ中に入ってよい。

○でしようか。 Xでしようか。

防災クイズその5

Q 5.

地震が起きたら、すぐに市が指定した広域避難場所へ避難する。

○ でしょうか × でしょうか。

防災クイズその6

Q6 地震が起きてから
避難場所へ避難するとき、
道路の被害がなかったので、
車で避難する。

○でしょうか × でしょうか!

防災クイズその7

Q7. 大災害時はテレビやラジオよりも、その場にいる人の声をたよりに行動も決定する。

○ でしょうか × でしょうか。

防災クイズその8

Q8.

地震発生後、エレベーターも
使わずに階段で避難す
る。

○でしょうか。Xでしょうか!

防災クイズその9

Q9.

各家庭の備蓄は、水は1人3ℓ
×3日分、食料は1人1日3食×3日分
が必要である。

○ でしょうか。 ~~X~~ でしょうか。

防災クイズその10

Q10

阪神・淡路大震災では、
犠牲者のほとんどが火災に
よる焼死である。

○でしようか、~~×~~でしようか。

終わりに

- クイズ(大きな輪)

- 1, ○を1回切ると

- 2, ○を1回ひねって結んで切ると

- 3, ○を2回ひねって結んで切ると

さて大きな輪になるのは何番でしょう？

質疑応答

- ご清聴ありがとうございました